



ハイナイト祈禱課題 2026年5月号

1. 緊張が続くイスラエルの人々の守りのために

4月、「イスラエル」対「イラン、ヒズボラ」との戦いは一時停戦を迎えました。しかし、戦争開始から40日間で受けた影響は大きいものでした。イランは、イスラエルの市街地に向けて、500発以上の弾道ミサイルを発射しました。多くは迎撃されたものの14発が着弾しました。さらに、大量の小型爆弾が拡散されるクラスター弾の被害は、200カ所以上で確認されています。北部では、ヒズボラから、一晩で150発ものロケット弾が撃ち込まれる夜もありました。イスラエル全土で、1日何度もシェルターに駆け込む緊張の絶えない日々が続きました。

こうした中、家を失った人々が、大型ホテルなどに身を寄せています。3月18日時点で、避難民は約3万5千人に上り、さらに自主避難している人たちもいます。危険地域から避難しても、避難先で攻撃を受け、住む家を失った人たちもいます。

特に生活弱者への影響は深刻です。古い建物の上階は家賃が比較的安いこともあり、高齢者や子どもを抱えたシングルマザーが住んでいるケースも見られます。サイレンが鳴ってから、階段で地下シェルターに移動するのは、容易ではありません。シェルターのない家に住む人たちは、公共シェルターまで走らなければならない、高齢者が転倒してけがをするケースも報告されています。子ども

たちは、学校が閉鎖され、オンライン授業が続きました。

ハマスとの2年以上にわたる戦争で、既に、多くの人々が心の傷を抱えています。生活再建をしようとしていた矢先の戦争で、人々は心も体も疲弊しています。

こうした中で、イスラエルの人々は、神が共におられることを体験しています。シェルターでも、主をほめたたえる歌を歌い、祈りを捧げます。4月には、ミサイルが飛ぶ中で、出エジプトの神の御業を覚える過ぎ越しの祭りを祝いました。またホロコースト記念日、戦没者追悼記念日、そして建国記念日もありました。建国記念日は、イスラエルを民族絶滅の危機から救い出し、命と国を与え、守り続ける神の真実さを見ます。今回、家を失ったホロコースト生存者はこう語りました。

「子どもの時、乗っていた電車がナチスに砲撃されましたが、守られました。今度は、ハイファの自宅でもミサイルが直撃しましたが、再び命が守られたのです」

歴史を超えて、暗闇の力はイスラエルを滅ぼそうとしてきました。しかし、イスラエルの民はそのたびに立ち上がってきました。困難の中でも、イスラエルの人々が主により頼んで歩めるよう祈り続けていきましょう。

恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。

——主のことば——**あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。(イザヤ41:14)**

- ①戦争で家を失った人々、心身に弱さを抱える人々に具体的な助けが与えられるように。
- ②困難の続く中でも、イスラエルの人々が主にある平安と励まし、希望を持ち続けることができるように。
- ③反イスラエルの嵐の中、主がイスラエルを愛し、とりなすクリスチャンを世界中に起こし続けてくださるよう。

2. 被災地支援を覚えて

日本はここ30年で大震災を度々経験してきました。5年～15年おきに大震災が発生しています。

復興が進み、生活再建が進んでいる地域もあります。一方で、地震発生から2年余りの能登半島では、今も仮設暮らしの方が大勢おられます。特に被害の大きかった石川県では、約1万9千人が今も仮住まいの状態で、住宅再建はこれからです。

また、たとえ目に見える建物の復興が進んでも、



キリストの愛でその地の人々を愛し、仕えるボランティアの姿が証しとなっています
写真: 金沢グレイスチャペル 辻本真悟先生 提供

心の回復、コミュニティの回復には長い年月が掛かります。

震災を繰り返し体験する中で、キリスト教会も、こうした被災地における支援活動に一致して取り組む体制が整えられてきました。そのノウハウは新たな被災地にも生かされています。キリ

ストの愛でその地の人々を愛し、仕えるボランティアの姿が証しとなっています。被災地の諸教会と支援の働きに関わる人々を主が支え、励まし続けてくださるよう、またその労に報いてくださるよう、私たちも祈りをもって支え続けていきましょう。

涙とともに種を蒔く者は 喜び叫びながら刈り取る。(詩篇126:5)

- ① 支援を行う教会やキリスト教団体の働き人の心と体を主が支えてくださるよう。
- ② 支援活動や教会の働きを通して、主が被災地の人々の心に触れてくださり、救いと真の希望を受け取る方々が起こされていくように。
- ③ 主が教会や支援団体に、今後起こり得る震災への必要な備えを与えてくださるよう。

3. ミサイル被害地・ディモナへの支援を覚えて

ディモナは、ネゲブ砂漠にある人口約4万人の町で、その名は、ヨシュア記15章にも登場します。イスラエル建国後、「砂漠に都市をつくる」という構想の中で開発されました。死海で働く労働者や、世界各地から大量に帰還する新移民の受け入れに




「兄弟姉妹のように皆さんがいてくださることが、どんなに大きいことか! 昨夜起きたばかりの惨事です。しかし数時間後には駆け付けてくださいました」エルラット・レイテン=マロムさん(イスラエル国会議員)
写真:BFP映像Rising from the Rubble: Standing with Dimonaより

備えるためです。ディモナは、BFPにとって現地提携団体を通じて、長年にわたって、特別な関係を築いてきた町です。

3月21日、イランの弾道ミサイルがディモナに着弾し、住宅や幼稚園が破壊。約60人が負傷し、12歳の少年が重体になるなど甚大な被害が出ました。BFPはその数時間後に現場に入り、支援を開始しました。

迅速な支援が可能になったのも、皆様の祈りと支援によって、長年築き上げられてきた関係があったからです。BFPは、ディモナだけでなく、ミサイル攻撃を受けた町々に支援をお届けし、世界中のクリスチャンが共にいることを伝えています。

映像はこちら ▶▶▶

 <https://youtu.be/gFPI3LGeYqQ>



友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。(箴言17:17)

- ① これまでの攻撃で愛する人を失った方々、被害を受けた方々に、主の慰めと平安、希望が与えられるように。
- ② 多くの必要がある中で、支援が必要なところに、迅速に届けられるように。
- ③ BFPからの支援とボランティアの存在が、イスラエルの人々の励ましとなるように。

「ハイレイトソング」

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」

祈りの第一声として
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイレイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org